

いては比較的明瞭に相違があらわれた。このことから、材質の変化には色感の変化がわずかながら伴うものであるといえる。衣服地の色感と材質感とは厳密に言えば切り離せないといえるのである。

## B-73 衣服地の材質感と色感について

横浜国立大 藤井 千枝

### 1. 研究の目的

色体系の上で作られた配色の法則を衣服材料に適用するとき材質の相違が問題になるが、これは材料の表面状態の相違から来る光の反射状態の相違によるのである。これが衣服地の色にどのような影響を与えるかについては、衣服地の選定については、服装の配色美の構成上大切な事項である。そこで衣服地の表面状態（視覚による材質感をとり上げた）と色感の関係について調べる実験を行なった。

### 2. 方法

衣服材料数種をとりあげ、同一材料で毛羽立てて表面状態を変化させたものとさせないものとの標本を作り、被験者に観察させ、「かたい・やわらかい」「あたたかい・冷たい」「厚い感じ・うすい感じ」につき一対比較による回答を求めた。色については位置を一回毎に変化させて観察させ「明るい・暗い」「彩度が高い・低い」「色相がちがう・ちがわない」につき回答させた。

### 3. 結果

色相は不変、明度及び彩度にわずかの相違があらわれた。材質感に対する表現「かたい・やわらかい」等につ